

とうきょう すくわくプログラム実践報告書(八王子市)

施設名	八王子市立高尾保育園
-----	------------

1. 活動のテーマ

<テーマ>

のりもの

<テーマの設定理由>

日常の保育園生活の中で、園から見える電車に対し「中央線だ!」「あずさだ!」と興味を示す姿が見られた。そこで実際に駅に出向いて電車を観察すると、「この電車はゆっくりだったね」「この線路には、はやぶさは来ないのかな?」といった、子どもならではの視点による気づきや、疑問の声が多く聞かれた。

また、駅で路線バスを見かけた際には、乗降する多くの乗客を見て、「こんなにいっぱい乗っても動くのかな?」と関心を示すなど、電車やバスといった「のりもの」への興味関心がより広がっている様子がうかがえた。こうした子どもたちの主体的なつぶやきや探求心を大切にしながら、学びへとつなげていくことを目的として、本テーマに決定した。

2. 活動スケジュール

～10月 散策活動・園内での乗り物遊び

11～12月 乗り物に関する施設見学

1～2月 創作活動

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

スケッチブック・プラレール・レール・トイカメラ・紙芝居・スクリーン・DVD・写真展示フォルダー

4. 探究活動の実践

日常の散歩の中で、子どもたちは電車やバスなど、身近な「のりもの」に強い関心を示していた。そこで、トイカメラやスケッチブックを持参して散歩に出かける環境を整えたところ、これまで以上に意欲的に周囲を観察し、興味を深める姿が見られた。撮影した写真を園に戻ってから保育者や友だちに見せながら共有し、自分の気づきや発見を伝えようとする姿もあった。

また、乗り物のDVDや図鑑に触れる中で、飛行機に興味をもつ子もいた。散歩や園庭遊びの際に飛行機が空を飛んでいることに気付くと、「先生、見て！飛行機！」と知らせ、じっと観察する様子が見られた。その後、ブロック遊びでは飛行機作りに夢中になり、最初は羽と胴体だけの簡単な形だったが、図鑑をよく観察する中で「タイヤがついている」ことに気づき、少しずつ表現が変化していった。完成した飛行機を保育者の頭上で走らせたり飛ばしたりし、自分が見た世界を再現しようとする姿から、イメージを遊びに反映させる力が育っていることが感じられた。

12月には京王レールランドを見学した。現地ではプラレールで遊ぶ時間を設けたが、3歳児の一人が「車はないのかぁ……」と落ち込んだ表情を見せた。保育者が気持ちを受け止めて尋ねると、展示を指さしながら「あれを作りたいかった……」と話す姿があった。展示は街全体を表現したジオラマであり、ただ電車を走らせるだけでなく「街」を作りたいという思いがあったことが伝わってきた。この経験を受けて、後日園での遊びでは街作りを意識した姿が見られるようになった。それまでは車や電車を走らせることが中心だったが、トンネルを作ったり、レールを二階建てにしたり、レゴで駅や駅ビルを作って組み合わせるなど、遊びが立体的・発展的になっていった。5歳児の子は、ラキューを使ってスポーツカー作りに夢中になっていた。最初は一人ではうまく作ることができなかったが、同じクラスの友だちに作ってもらったり、そばでよく観察したりすることで、次第に自分でも再現できるようになっていった。友だちから学ぶ姿や、試行錯誤を重ねる姿が見られた。

日頃の遊びの中で制作してきた乗り物に関する作品を、2月の行事で展示したことで、保護者にも子どもたちの興味や育ちの過程を共有することができた。これらの経験を通して、子どもたちの「のりもの」への興味はさらに深まり、遊びが継続的に広がっていく様子が見られた。

<活動の内容>

～10月

【散策活動】

- ・スケッチブック・カメラ等を持参し、散歩に出かける。
- ・散歩先で見かけた乗り物を絵や写真で記録する。

【園内での乗り物遊び】

- ・新たに導入した玩具を使用し、乗り物に関連した遊びを展開する。
- ・実際の交通ルールや乗り物のしくみにも触れながら、遊びを通して学びを深める。

11～12月

【乗り物に関する施設見学】

- ・実物または、実物に近い乗り物の展示がある施設を訪問し、見学・体験活動を行う。
- ・実際に見たり触れたりする体験を通して、乗り物への興味関心をさらに深めるとともに、社会とのつながりを意識するきっかけとする。

1～2月

【創作活動】

- ・見学や遊びの経験をもとに、子どもたちが自由に想像を広げ、自分だけの乗り物を考え、製作する。
- ・空を飛ぶ・水に浮かぶ・変形するなど、子どもならではのユニークなアイデアを大切にしながら、紙・段ボール・廃材などを使って形にしていく。
- ・完成した作品は、発表・展示し、他者との共有や達成感につなげる。

＜活動中の子どもの姿・声、子ども同士や保育者との関わり＞



どうやって動くんだろう？
こんなにいっぱいお客さんが乗
って動くのかなあ？

保育園に、消防署の方が来てくれて
カッコいいバイクに乗せてもらいました！
消防車の中がどうなっているのかも
見せてもらいました ✨



1人1台トイカメラを購入し、
園内で乗り物探し中♪
消防車の張り紙を発見しました ✨

子どもから出た疑問をもとに、

京王レールランドへ 🚆





電車の展示やプラレールに夢中！
普段電車に興味のない子も興味
深そうに見ていました ✨



「車はないのかぁ…」

プラレールコーナーで遊んでいた子から「車
はないのかぁ…」という声が聞こえてきまし
た。どうやら、巨大なプラレールの見本を、見
て同じように遊んでみたかったようです。そ
の場では、あるおもちゃを使って楽しく遊ん
でいました。

★後日、園内でプラレール遊びを
していると、電車の周りを車で走ら
せる姿が見られました。自分の思
いを形にしようとする工夫や、遊び
の発展が感じられる場面でした。



ビデオ上映を鑑賞中♪
日頃の散歩時に疑問に感じていた、車
両の幅に関するクイズも出題されま
した。京王線・中央線はどっちが大き
いかのクイズでした。正解は、京王線
でした ✨

京王レールランド見学後は、今までにはなかった新たな発想で、トンネルを作ったり、2階建てにしたり、駅ビルを作ったり…♪
今まで以上に遊びが広がっていました。♡



子どもを主体に、乗り物に関する遊び『じゃんけん列車』も楽しみ始めました ✨♡

loolでスポーツカー作りに夢中になり、自分のトイカメラで撮影 📷♡
友だちや保護者の方に見てもらいました。♡



日頃の遊びの中で、楽しんできた製作物を、♡
お楽しみ会で展示しました ✨♡
乗り物を作る子もいれば、お家作りを楽しむ子もいました！♡

5. 振り返り

＜振り返りによって得た先生の気づき＞

① 日常の中の「本物の体験」が興味を深める

散歩中に見かける電車やバス、空を飛ぶ飛行機といった日常的な体験が、子どもたちの強い関心の出発点になっていた。トイカメラやスケッチブックを持って出かけることで、「見る」から「残す」「伝える」体験へと広がり、興味を継続・深化させる環境づくりの大切さを感じた。

② 観察を通して表現が具体化発展する

図鑑やDVDなどをきっかけに、子どもたちは細部までよく観察するようになり、ブロックや制作物にもその気づきが反映されていった。飛行機にタイヤを付け加える、街を意識した構造を作るなど、見る→気付く→再現するという学びの流れが、遊びの中で自然に起きていることに気付いた。

③ 子どもの「やりたかった思い」を受け止めることの重要性

施設見学の際、思い通りにいかず落ち込む姿が見られたが、その気持ちを丁寧に受け止めたことで、後日の遊びにつながった。子どもの「作りたかった」「こうしたかった」という思いの背景を理解し、次の環境や遊びに生かすことが、遊びの広がりにつながると感じた。

④ 年齢や経験に応じた学び合いが育ちを支えている

5歳児が友だちの制作を見たり、手伝ってもらったりしながら学ぶ姿から、模倣や協同の中で「できるようになる」経験の大切さを実感した。異年齢や友だち同士の関わりが、意欲や挑戦につながっていることに気付いた。

⑤ 経験の共有が自信と意欲を育てる

写真を見せ合ったり、制作物を展示して保護者と共有したりすることで、子どもたちは自分の遊びや興味を認めてもらえる喜びを感じていた。活動を「やって終わり」にせず、振り返りや共有の場を設けることが、さらなる意欲や探究心につながると感じた。